名大の時間 575

名寄で警察にお世話になりました

誤解のないよう詳細を伝えると、私が所属している演劇サークルに、名寄警察署の交通課の方から免許返納に関する演劇をしてくれないかと依頼を受けたのだ。我々は「演劇サークルポテト」の名前を地域に広めるという不純な動機をそれなりに隠しながら喜んでこの依頼を受けた。

まず演劇をするには脚本が必要である。今回は免許返納というなかなかに複雑なテーマを扱うため、脚本をどうしようかと話していると、警察の方が脚本を書いてくれるというのだ。その脚本を読んだ瞬間サークル員皆が思った。これは楽しい劇になりそうだ！

登場人物はおばあさん。その孫。そして運転免許証、運転経歴証明証の3人である。え、運転免許証？と思った方もいるだろう。そう。運転免許証である。運転免許証役の人間が一人必要だということだ。運転免許証の擬人化、それを可能にしたのは、顔はめパネルという方法である。顔はめパネルで舞台に上がるなんて恥ずかしい！と考える人もいるかもしれないが、幸いサークルには愉快な仲間がそろっているためすぐに誰がその役を担うかが決まった。笑わせたもの勝ちである。

この依頼がハードだった理由は、運の悪いことに劇の準備期間が学生ならば逃れられない魔のテスト期間と被ってしまったことである。我々はテスト期間に脚本を覚えることを完全に放棄し、テスト勉強に集中した。

先方にはテスト勉強の間に脚本を覚えていると言ったこともあるが嘘も方便である。テストが終わってからは毎日練習に励んだ。実際に自分たちで段ボール顔はめ免許証を自作してみたり、セリフを一部アレンジしてみたりして、劇をより良いものに仕上げていった。

本番前には新聞社三社による取材をうけ、当日にはテレビ局も取材に来た。我々は緊張と今年度最後の舞台という事も相まっておかしなテンションになっていったが、当日の舞台はなんとか無事終えることが出来た。

「演劇サークルポテト」の名前を地域の方に知ってもらうことも、免許返納することによってどういった良いことがあるのかなども地域の方に知らせることが出来ていい演劇となったと思う。

社会保育学科3年
金本采己